

ダニエルの書 - 第三百三十五号

1776年、1789年、1798年の預言的な声：十四万四千人の封印への序章

Jeff Pippenger

2024-03-14

1776年、1789年、1798年の歴史は、十四万四千人の封印の歴史を例証している。それらの各年において、地の獣が語った。地の獣が三度語ったことにより象徴される三つの道標は、2001年9月11日、2023年7月、そして間もなく到来する日曜法におけるキリストの三つの声と並行している。

私は主の日に御霊にあつて、背後にラッパのような大きな声を聞いた。黙示録 1:10。

それら三つの声の道標はそれぞれ、第三のわざわいの高まっていく「鳴り響き」を示しており、それはまた第七の警告のラッパでもある。そしてラッパは声である。

声を限りに叫べ、ためらうな。ラッパのようにあなたの声を上げ、わたしの民にその背きを、ヤコブの家にその罪を告げよ。イザヤ書58章1節。

2001年9月11日、プロテスタントの角笛に響いた声は、ラオデキヤ的アドベンチズムをエレミヤの古き道へ呼び戻す見張り人たちの声であったが、あざける者たちの会衆はその道を進むことを拒んだ。

主はこう言われる。道に分かれ道に立ち、見渡し、昔からの道、どこに良い道があるかを尋ね、その中を歩め。そうすれば、あなたがたは魂の安らぎを見いだす。しかし彼らは、「私たちはそこを歩まない」と言った。また、私はあなたがたの上に見張り人を立て、「ラッパの音に耳を傾けよ」と言った。しかし彼らは、「私たちは聞かない」と言った。エレミヤ書 6:16、17。

2020年7月18日の最初の失望以来沈黙していたFuture for Americaの働きの復活こそが、2023年7月の声であった。間近に来られるメシアを告げたヨハネの場合と、間近に現れる反キリストを告げたユスティニアヌスの場合と同様に、Future for Americaは、近く制定される日曜法と、その道標における第七のラッパの吹き鳴らしによって、アメリカの未来が永遠に変えられようとしていることを明らかにした。荒野で叫ぶ者の声こそ、2023年7月の声であった。

黙示録18章の第二の声は、地の獣が竜のように語るとき、すなわちまもなく到来する日曜法において響く。その時に「ロバ」は三度目に打たれ、その後「ロバ」は語る。「ロバ」は2001年9月11日の直後に、また2023年10月7日の後にも打たれ、そしてまもなく到来する日曜法において再び打たれ、そこで語る。バラムの証しでは、「ロバ」は天使によって道から外れさせられ、その天使はイスラムの四つの風を押さえるよう命じられた四人の天使を表している。だが日曜法においては、イスラムの「ロバ」は第七のラッパの響き、すなわち第三の災いでもあるその響きをもって語る。

そこで、2020年7月18日以来遅れていたイスラムの異象が語る。というのも、そのときにはもはや遅れることがないからである。十四万四千人の封印の期間には多くの声があり、

その期間は、間もなく施行される日曜法をもって始まる神の執行的裁きに先行する。神の執行的裁きは、七つの鉢を携えた七人の天使によって表されている。その期間は聖霊の注ぎ出しから始まり、それは、聖霊が注がれ、炎のような舌がその出来事を証したペンテコステの繰り返しを表す。その時点での注ぎ出しはもはや制限されない。というのも、そのとき聖霊は限りなく注がれるからである。

第三天使のメッセージの宣言に加わる天使は、その栄光によって全地を照らすであろう。ここには、世界的規模でこれまでにない力をもつ働きが予告されている。1840年から44年の再臨運動は、神の力の栄光に満ちた現れであった。第一天使のメッセージは世界のあらゆる宣教地にまで運ばれ、いくつかの国々では、16世紀の宗教改革以来いづれの地でも目撃されたことのないほどの宗教的関心が起こった。しかし、これらは、第三天使の最後の警告のもとで起こる力強い運動によって、なおいっそう凌駕されるだろう。

「その働きは五旬節の日のそれと同様になる。福音の始まりにおいて、尊い種が芽を出すように、聖霊の注ぎとして『初めの雨』が与えられたように、その終わりには、収穫を熟させるために『後の雨』が与えられるであろう。」『大いなる論争』611頁。

2001年9月11日、十四万四千人の封印が始まり、聖霊は測りをもって注がれた。この注ぎの測りは、キリストの復活に始まるペンテコステの歴史の中に表されており、そこで天使が「神の子よ、出て来なさい。父があなたを呼んでおられる」と語った。これは、イエスが「ラザロよ、出て来なさい」と言って墓からラザロを呼び出したのと同じである。2023年には、キリストは二人の証人の死んで乾いた骨に向かって「出て来なさい」と呼びかけられた。

キリストの復活の後、彼はまず御父のもとへ昇られ、その後、2001年9月11日のときと同じように降りて来られた。続いて、まずマリアに会われ、エマオへの道では弟子たちに会って教えられ、その後は残りの弟子たちに現れるなどして、段階的に弟子たちを啓いていかれた。最後の昇天の前に四十日の間、彼は弟子たちを教え、さらに十日後、彼らは皆心をつにして一つ所におり、聖霊が限りなく注がれた。

イエスが弟子たちと会われたとき、イエスは、ご自身の死の前に彼らに語っておられた言葉、すなわち、モーセの律法、預言者たちの書、そして詩篇に彼について書かれているすべてのことが成就されなければならない、ということをおぼろげにさせた。「そこでイエスは彼らの悟りを開いて聖書を悟らせ、彼らに言われた、『こう書いてある。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえらなければならない。また、悔い改めと罪の赦しが、その名によって、エルサレムから始めて、すべての国々の人々に宣べ伝えられなければならない。あなたがたはこれらのことの証人である。』」『The Desire of Ages』804。

2023年7月、イエスの御声が死んでいた二人の証人を呼び覚まし、モーセの律法（「七つの時」）、預言者（ネブカドネザルの獣の像）、そして詩篇（モーセと小羊の経験）に書かれているすべてのことについて、弟子たちの悟りを開き始めた。彼の教えの働きはご自身の復活の時に始まり、その後の四十日間でさらに高まっていった。それは、何か食べ物があるかと求められたことから始まった。

彼らが喜びのあまりなお信じられず、驚いていると、彼は彼らに言った。「ここに何か食べる物があるか。」そこで、彼らは焼いた魚の一切れと蜂の巣の蜜を彼に差し出した。彼はそれを受け取り、彼らの前で食べた。さらに彼は彼らに言った。「わたしがまだあなたがたと共にいたとき、あなたがたに語った言葉はこれである。すなわち、モーセの律法と預言者たちと詩篇に、わたしについて書かれているすべてのことは、必ず成就しなければならないということだ。」ルカによる福音書 24:41-44.

祈りは展開しつつある歴史における主要な道標であり、キリストの復活から四十日後の昇天までの歴史は、聖霊が限りなく注がれるはずのペンテコステまで十日間（十は試みである）を残した。彼の復活と昇天、そして再びの降臨は、2001年9月11日を表している。2023年7月はその四十日の終わりを表しており、その2023年7月に続く十日間は、間もなく到来する日曜法へとつながる。その最後の十日間においては、一致と祈りが道標である。その一致は、骨と筋と肉を一つに集めたエゼキエル書三十七章の第一の預言によって表されている。エゼキエルの第二の預言は、四方の風の息であり、この息は祈りの象徴である。その最後の十日間に、十四万四千人が封印される。彼らはラザロによって型示されてきたからである。

これは、彼がベタニヤへ行くのを遅らせた理由であった。この頂点となる奇跡、すなわちラザロのよみがえりは、彼の働きと彼の神性の主張に神の印を押すためのものであった。『The Desire of Ages』529頁

この最後を飾る奇跡のときには、賢い乙女たちが印づけられるだけでなく、愚かな乙女たちもまた、事の誤った側に印づけられる。

「キリストの頂点をなす奇跡-ラザロの復活-は、民衆に対する彼らの影響力を急速に打ち砕きつつあったイエスとその驚くべきみわざを世から葬り去ろうとする祭司たちの決意を、確固たるものにした。」使徒行伝、67.

間もなく到来する日曜法へと至る、十四万四千人の封印の歴史における多くの声は、「行に行を重ねる」、神の預言のことばの声であり、そして「すべての幻の成就」がなされる時期に響く。第七の封印が開かれるとき、それらは響く。

また、彼が第七の封印を解いたとき、天には半時間ばかり静寂があった。私は、神の御前に立っている七人の御使いを見た。彼らには七つのラツパが与えられた。また、もうひとりの御使いが来て祭壇のそばに立ったが、その手には金の香炉があった。そして、多くの香が彼に与えられた。すべての聖徒たちの祈りとともに、それを御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。すると、その御使いは香炉を取り、祭壇の火でそれを満たし、それを地に投げつけた。すると、さまざまの声と雷鳴と稲妻と地震が起こった。黙示録 8:1-5.

第七の封印が開かれると沈黙が生じた。というのも、その期間は経綸の変化を表しており、聖なる経綸の変化においては、十字架において天使たちが音楽と賛美をやめたことが証しているように、天では常に沈黙があるからである。天における沈黙は、贖罪日の規定によっても証しされており、1844年10月22日には、ハバクク書2章20節が全地に沈黙を保つよう命じた。

神がその御子を死に渡し、人が赦しを得て生きることができるようにしてくださった、その偉大な愛とへりくだりが私に示された。エデンの園の美しさと麗しさを仰ぎ見る特権を与えられ、園の木のうち一本を除いてすべてから食べることを許されていたアダムとエバが私に示された。しかし、蛇がエバを誘惑し、彼女は夫を誘惑し、二人は共に禁じられた木の実を食べた。彼らは神の戒めを破り、罪人となった。その知らせは天界に広まり、すべての豎琴は鳴りをひそめた。天使たちは悲しみ、アダムとエバが再び手を伸ばしていのちの木の実を食べ、不死の罪人になってしまうのではないかと恐れた。しかし神は、違反者たちを園から追い出し、ケルビムと炎の剣によっていのちの木への道を守り、人がそれに近づいてその実、すなわち不死を永続させる実を食べることのないようにすると言われた。『初期の著作』125頁。

人間が罪人となったとき、天は沈黙し、罪人を贖うためにキリストの血が流されたときにも天は沈黙し、キリストがご自分の民から罪を取り除くための裁きの働きを始められたときにも天は沈黙した。

天の聖所におけるキリストの人類のための執り成しは、彼の十字架上での死と同様に、救いの計画にとって不可欠である。彼はご自身の死によってその働きを始め、復活の後、それを天で完成するために昇天された。『大争闘』489頁。

審判の働きは1844年に第三の天使が到来した時に始まったが、神の民は、神と永遠に一つとなることよりも、荒野で死ぬことを選んだ。第三の天使は2001年9月11日に再び到来し、天には再び沈黙があった。するとユダ族の獅子は、天使たちが最後の世代の歴史における第三の天使の到来を見守る中で、第七の封印を解き始めた。

七人の裁きの天使は破壊の働きに取りかかる用意をしてそこにいたが、十四万四千人に封印が施されている間は「待て、待て、待て、待て」と言い渡された。忠実な者たちの二重の祈りは天に送られ、それは荒野の象徴である四十日の後に始まり、ペンテコステに先立つ十日間によって型示され、黙示録11章の（荒野の象徴である）三日半を表している。そのとき、二人の証人は荒野からの声によって、ダニエルの二つの祈りを成就しなければならぬと告げられた。すなわち、ダニエル書二章の祈り（ダニエルと三人の勇士が、獣の像に関するネブカドネザルの秘められた夢を悟るための光を求めて祈ったもの）と、ダニエル書九章の祈り（ダニエルが独りで祈り、レビ記二十六章の祈りの要件を満たしているもの）である。

ダニエル2章の共同の祈りは、預言史の外的な線の中に隠されていた秘められた奥義についての光を求めるものであった。ダニエル9章の私的で個人的な祈りは、内的な必要に関して憐れみを求めるものであった。2001年に後の雨の火が降り始めると、線に線を重ねる方法論を理解していた者たちには、多くの声が聞こえた。地に投げ入れられていた祭壇からの火は、賢い者と愚かな者の最終的な分離を生み出すメッセージであり、そのメッセージがその象徴的な十日間にわたって発展し続けるにつれて、そのメッセージはますます明確になっていった。

そのメッセージとは第三の災いの深刻化する危機であり、エゼキエル書三十七章では、まず二人の証人を一つに集め、次に彼らを強大な軍勢として立たせる二つの預言として表されている。その後、彼らは一本の棒に合わせられ、一本の棒としての結合が示すのは

神性と人性の結合であり、これは十四万四千人の封印の最終段階で成就する。

2023年7月、祈りが天に昇り始めた。それはダニエル書第9章と第2章の祈りであった。すると、声と雷鳴が聞こえ、稲妻も見えた。稲妻と雷鳴は、自然界でも預言においても、雨に伴う。雨は2001年9月11日に始まった。稲妻と雷鳴への最初の言及は、それが敬虔な恐れを生み出すことを意図したメッセージであることを示している。

そして三日目の朝になったとき、雷鳴と稲妻が起こり、山を厚い雲が覆い、非常に大きなラッパの音が鳴り響いた。そのため、宿営にいた民は皆、震え上がった。出エジプト記 19:16。

稲光と雷鳴はラッパの「声」を伴っていた。それらには雨も伴い、神の民を導くための預言的な歩みを表している。

雲は水を注ぎ出し、天は声を放ち、あなたの矢も四方に飛び交った。あなたの雷の声は天にとどろき、稲妻は世界を照らし、地は震えて揺れ動いた。あなたの道は海の中にあり、あなたの通り道は大水の中にあり、あなたの足跡は知られていない。あなたはモーセとアロンの手によって、群れのようにあなたの民を導かれた。詩篇 77:17-20。

稲妻と雷鳴は神の声であり、それは雨の時に起こる。その期間、神はご自分の宝庫から風（イスラームは東風である）を取り出される。

彼が声を発すると、天には大水のとどろきが起こり、彼は地の果てから蒸気を立ちのぼらせ、雨とともに稲妻を造り、彼の宝物庫から風を出す。エレミヤ書 10:13

神は獅子のように叫ばれたとき、その御声を発せられ、それに応じて七つの雷が声を発した。そしてその七つの雷は、ミラー派運動の歴史における神の足跡、また第三天使の運動における神の足跡を表しており、第三天使の運動は、神が御自分の宝庫から東風を出された2001年9月11日に再び到来した。

彼は地の果てから蒸気を立ちのぼらせ、雨のために稲妻を造り、その倉から風を取り出す。彼はエジプトの人と獣の初子を打った。詩篇135:7, 8

彼は、エジプトの長子が打たれたとき、御自分の宝庫から風を取り出した。そして過越祭は十字架を予表し、それはさらに1844年における第三の天使の到来を予表し、さらにそれは2001年9月11日の東風の日における第三の天使の再来を予表した。

七つの封印で封じられた書の封印が取り去られるとき、それは真理の漸進的な展開を表している。第七の封印が取り除かれることは、十四万四千人が封印される時期を表している。七つの封印で封じられたその書が最初に言及されるときには、稲妻と雷鳴と声はあるが、地震はない。

また、御座から稲妻と雷鳴と声が発していた。御座の前には七つの火のともしびが燃えており、それは神の七つの霊である。黙示録 4:5

声と稲妻と雷が最初に言及される箇所では、雨は七つの火のともしびである聖霊によって表されているが、地震はない。間もなく来る日曜法に関わる地震が明らかにされるのは

、第七の封印が解かれる時である。黙示録第4章は、ユダ族の獅子によって真理の封印が解かれ始める起点を示し、また封印の時期が示されると、その期間の始まりと終わりも示される。

現在の期間の始まりは、2001年9月11日、天使がその栄光をもって地を照らすために降りてきた時であった。そしてイザヤ書6章では、日曜法で結末を迎える「声、稲妻、雷鳴、風と雨」で表されるそのメッセージは、見るには見るが稲妻の意味を悟ることができず、聞くには聞くがその声と雷鳴を理解することができない民に向けて宣べ伝えられる、と知らされている。彼らは大地震に襲われるまで、そうした状態にとどまる。十四万四千人の封印の期間は、すべての幻の成就が果たされる時期である。

その歴史は二種類の礼拝者を生み出し、明らかにする。一方の人々は雨を見分け、それゆえそれを受け。彼らは稲妻を見、声と雷鳴と風の音を聞くことができるからだ。封印の期間の終わりには、間もなく到来する日曜法に伴う大地震が起こり、それが神の裁きの執行の幕開けとなる。

そして、天にある神の神殿が開かれ、その神殿の中に神の契約の箱が見えた。また、いなずまや声や雷鳴、地震、そして大きな雹が起こった。ヨハネの黙示録 11:19。

大地震のとき、「稲妻、声、雷鳴」には「雹」も含まれる。この「雹」は、封印の時期の初め、第七の封印が開かれつつあったとき、七人の御使いが裁きを注ぎ出す備えをしていて、しかも、地（外面的）と教会（内面的）で行われた忌むべきことのために嘆き叫ぶ者たちに印を付けるために御使いがエルサレムを歩き巡るのを彼らが待っていた、まさにそのときに始まる裁きを表している。

「hail」は、神の破壊的な裁きの時を示しており、それは神のもう一つの群れにとって は憐れみの時で、その群れはそのときバビロンから呼び出されている。そして、その大群衆の最後の者が神の群れに加わったとき、人類の猶予期間は完全に閉ざされる。

第七の天使がその鉢を空中に注いだ。すると、天にある神殿の御座から大きな声がして、「事は成った」と言った。また、声と雷鳴と稲妻が起こり、人が地上にいるようになって以来かつてなかったほどの、非常に激しく大きな地震が起こった。大いなる都は三つに裂け、諸国の町々は倒れた。そして大いなるバビロンが神の御前に思い起こされ、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を彼女に与えるためであった。ヨハネの黙示録 16:17-19

親愛なる読者へ：声や雷鳴が聞こえるか。稲妻が見えるか。風を感じるか。間もなく、油を乞う愚かな乙女たちの声を耳にするだろう。

次回の記事でこの研究を続けます。

私たちは平安を待ち望んだが、良いことは来なかった。癒しの時を期待したが、見よ、苦難が来た。ダンから彼の馬の鼻息が聞こえた。彼の駿馬のいななきの音に、全土は震えた。彼らは来て、地とその中にあるすべてのもの、町とその住む者を食い尽くしたからだ。見よ、わたしはあなたがたの中に、まじないでは手はずけられない蛇、まむしを送る。それらはあなたがたをかむ、と主は言われる。悲しみに対して自分を慰めようとしても、私の心はうちで弱り果てている。

見よ、遠い国に住む者たちのゆえに、わが民の娘の叫びの音がする。
主はシオンのうちにおられないのか。彼女のうちにその王はおられないのか。なぜ彼らは、自分たちの刻んだ像と、見知らぬ虚しいものによって、わたしを怒らせたのか。
刈り入れは過ぎ、夏は終わったのに、私たちは救われていない。
わが民の娘の傷のために私は傷つく。私は喪に服し、驚愕が私をとらえた。ギレアデには香油がないのか。そこには医者がないのか。ではなぜ、わが民の娘の治癒は得られないのか。エレミヤ書 8:15-22